

PROGRAM NOTE

2013

近藤譲：花橘

3つの対位法的な歌と2つの間奏

Hana-tatibana

Three Contrapuntal Songs and Two Interludes

この作品は、その副題が示す通り、バリトン・パートとチューバ・パートの2声の対位法による3つ歌（第1歌「折りしもあれ」、第2歌「さみだれに」、第3歌「風に散る」）と、それぞれの歌の間で演奏される2つの短い(独奏的な)間奏から成っている。3つの歌の歌詞は、いずれも「千載和歌集」に収められている和歌で、花橘を詠っている：

- (1) 折りしもあれ花たちばなのかをるかな昔を見つる夢の枕に(藤原公衡朝臣)
- (2) さみだれに花たちばなのかをる夜は月澄む秋もさもあらばあれ(崇徳院)
- (3) 風に散る花たちばなに袖しめてわが思ふ妹が手枕にせん(藤原基俊)

また、第1歌と第2歌の間で演奏されるバリトン独唱の(チューバの補助的な合の手を伴う)第1間奏に用いられている歌詞は、「枕草子」から、夏(花橘の季節)について述べた次のような一節である：

「夏は夜。月の頃はさらなり。闇もなほ、螢のおほく飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。」

《花橘》は、低音デュオの委嘱により、今年の2013年の1月に作曲された。

近藤譲

初演：2013年3月(東京 杉並公会堂)

初演者：松平敬(バリトン)、橋本晋也(チューバ)

委嘱：低音デュオ

出版：University of York Music Press (UK)

演奏時間：7分